

GOD SHOOTER

バイバイらいん

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

今までは読む専でしたが試しに書いてみました。

ストーリーはGERB原作を沿う形で展開するつもりです。

俺は、ジーク君…？

目次

俺は、ジーク君…？

西暦2074年

かつては豪勢とまではいかなくとも立派な佇まいを誇っていたであろう図書館と思しき生々しい虫食い跡の目立つ建築物。

かつてはその屋根の下、腹の中に多くの人々が食い扶持を稼ぐ場になっていた多くの倒壊したビル群。

かつてはその華やかしさに似付く土地名を持つていたであろう場所は、フェンリルによって新たな区分の為の呼称として『黎明の亡都』となり

人の代わりにオラクル細胞と呼ばれる生き物が、より集まって出来上がった生物：アラガミ そんな連中が闊歩する地域において奴らを喰らう為に同じオラクル細胞を受け入れ人の枠を超えた狩る者：ゴッドイーター

前述した有様の荒廃したゴーストタウンにて黒い腕輪と対照的な白いニット帽の若い男が、鹿ほどの大きさの全身が緑色で角が大きく発達した最近現れて爆増中のアラガミであるドレッドバイクに対して、自分の身の丈ほどもある大剣を大きく振りかざすもアラガミが小さく後ろに跳ねられては虚しく宙を掻きその力と重さに振り回される形で小さくよろけると、後ろから飛んできた銃弾にヒット。

アラガミ用が開発、改良の施された銃弾は僅かながらにもオラクル細胞を受け入れたゴッドイーターにも痛みは有るようで呻くような声を上げてその犯人を睨み付けながら真つ当な文句を付けた。

「い…ったあ!?お、前えージーク！また当てやがったなー!?なんで俺にばっかり当てるんだよ!?!」

「ロミオ先輩がバスターに振り回されるから俺が取ってた安全エリアに入ってくるんではないか！俺だって人じゃなくて、アラガミを撃ちt——先輩！右、右ー!!」

先程小さなバックステップで距離のあったアラガミが視線を完全に他所へ向けていたロミオに向けて突進。ロミオとアラガミが絶妙

に被り射線が取れない為にどうする事もできないまま、マネキンのようにして軽く宙を舞う自身の先輩を他人事のように見つめてドシヤッと地面に落ちたロミオが悶える様子に生命に危険がない事を確認できればロミオからアラガミに視線を向けて睨み付けながら気を張った小さな呼吸を一つすると銃身を向け照準を正して、耳を聳する程の銃声と共に致命傷となり得る大きさの銃弾を今度はアラガミに対して多数叩き込みほどなく事切れると地面に倒れる。

しかし倒した敵に対してさらに二発、多く撃ち込み完全に動かなくなったのを確認してようやく今度は緊張した空気を吐き出すように大きく息を吐くと、悶えていたロミオが立ち上がっているのを確認するとロミオの方へと向かうのではなく倒したアラガミに近づきガンフォーム銃形態から剣形態へと神機を變形させてゴッドイーターが、神を喰らう者とされる特徴的な捕喰形態へと変貌させて息絶えたアラガミを喰らい始めた。

「……お前さー、普通あんな飛ばされ方した仲間ほったらかして先に素材集める?ねー…」

呼吸も落ち着きアラガミを喰らう後輩の近くまで近づくと呆れた表情と声をアラガミを貪る初めて出来た後輩へ話しかけた。

「どう見たって骨一本折れてるようには見えなかったですから、それなら放置しても大丈夫でしょう?それにライ○ハルト様はあのような攻撃で斃れるお方ではありませんから」

「…ジーク、お前は赤毛じゃない。赤いのは目と血、名前も少し被ってるぐらいだから自惚れるなよ。…しかしほんと好きなー、それ。勧められたから見たけど結局どこが面白いのか分らないから一話も見れなかったぞー?民主主義だの帝国の圧政だの…よく見れるなーつて」

「な…!!?銀○英雄○説が面白くない!?何がそんなに面白くないと…!!?政治の話だってそんな深掘りした話じゃないでしょう!?アレですか?作画ですか??33年前のあれがダメっていうのなら、ロミオ先輩の器というか知性というかセンスのなさが伺えますねー…?」

「なんでアニメひとつでセンスだの器だのまで言われなきやいけない

んだー!?第一あのアニメは86年前だろうが!!人の知性とか言う前にお前の記憶力が危ういんじゃないのかー!」

「そうか、今の人達にはもうそんな前なのか」と先輩からの指摘に一瞬遠くを見つめると誤魔化すような言葉と笑みでそんな小さな動揺を隠して後輩…小鳥遊ジークは生前の記憶との混同に気を付けつつもロミオ・レオーニと帰還準備が整うまで荒廃した街で、かつて人々がそうしたようにただ駄弁っていた。

どういう訳かはわからない。

どういう死に方をしたのかもわからない。

寝ているのか死んでいるのか、それすらもわからないが寝ている時に見る夢の中。

夢の中特有のあの感じ…それだけはハッキリとわかったから意識がないのは理解できた。

そんなふわついた感覚の中少しボロいベール…?を深く被り背の高い、顔は見えてないが外国人と断定出来るような背の高さの人が近づいてきた。

「雋工譚ケ縛ツ縛ウ縛? @縛ヲ豁、蜚ヲ縛オ螻? k縛ヨ縛ア縛唸?」

う、あ!?!なんだこれ!!言語?言語なんこれ!?!周りに…人が居る。訳ないから用が有るのは俺だろうな。けど…なんて言ってるか分からない以上はどうやって…。

「逾槭? 苺? 驛イ縲偵◎縛ヨ霄オ縛オ螳ソ縛帙? 縲了ア√? 險? 闡峨? 逅?ア」 蜚コ譚・縛セ縛?」

…人が考えてる時に立て続けに話しかけてくんなヤア!!人の言語じゃないだろこれ…!!

…:ん?人じゃない??人じゃないなら…

「縲医≡縲??逅?ア」 縛瑚ソス縛?▽縛?※縛阪◆縲医≡縛ア縛唸? 縲?」

…:相変わらず何言ってるか分からないけど、なんだか読みが大枠で

当たったみたい。多分神様、とかいう存在じゃないかなあ…？

いやはや…半信半疑に考えていた小物の前にわざわざお越しいただき誠にありがとうございます。本日は私に一体何を希望されるのでしょうか…？いや、それとも私の望みや懺悔をお聞きになる為にいらしたのでしょうか…？

「雋工譁ケ縛檣函縛阪※縛？◆縛ヨ縛ツ譎「縛才驕主悉縛ヨ莠九？√@縛九@雋工譁ケ縛ツ縛昂？髣倅コ牙ソ？r逋コ謠ヨ蜃コ譚・縛ヤ縛セ縛セ逕溷多縛ヨ輻才縛ツ豸医…縛ヲ縛励U縛？U縛励◆婁ヲ縛ア縛唢、縲JJイ工譁ケ縛ヨ髣倅コ牙ソ？r縲…怙蠕後U縛ア蠲九U縲俱コ九？縛エ縛九▲縛溯イ工譁ケ縛ヨ蠢??遨工縲貞沂縲√k縛薙↓縛後下縛阪k荳也阜婁ヲ縛昂？荳也阜縛才縛翫〓縛ヲ莠コ縲呈舞縛？ぜ縛ヨ譎ヲ螢才縛イ縛励※縲∞？螢才縛イ縛励※豁ヲ驕九？髣舌j縲貞―ス縛上@縛ヲ縛？◆縛？縛阪◆縛??縛ア縛唢?」

微塵も理解出来んな、やっぱ。

しかしその神様が手を広げてその間に写真のアルバムのように映像が映し出され、そのどれもが今までプレイしたゲームの映像であった。

FPSにレース、戦車やら飛行機やらロボットやらとあらゆるゲームが映るもその大半はFPSをはじめとしたPvPやPvEなどの銃を手に、兵器に乗ったり…まあ戦うゲームが多かった。

…どれもよく遊んだなあ、結構いい順位まで行ったものもあるし、ようは能力を認められた…というところかな。なんとも…神様に認めて頂けるとは身に余る名誉。感謝致します…ですが

「縛ア縛唢、??」

「ですが、認めるとか認めないとかいう下賤な人間という動物の真似はおやめになられた方が良いと考えます。何千年も地上を見られていたのであればご承知でいらつしやると思いますが、人がそんなくならない事の為に自分の身を滅ぼし、国を滅ぼし、幾人も人々が亡くなりました。認められないと分かれば、認めないと分かれば認めるまで何人でも殺し合う…そんな人の醜さそのものと言える認める認めないは真似しない方が良いと考えます。少なくとも私は大っ嫌いで

す。」

「縛ア縛ゆー縛ー縲✓◎縛ヨ螳溷鴨縛ツ縛ウ縛？ヲ九〇縲九？縛ア縛
呐？萍ヨ隕九／縛ゆ▲縛溘i縛ウ縛？☆縲九♀縛、縲ゆj縛ア縛呐？
溯工阪a縲峨ー縛エ縛代ー縛ー譚丞袖縛ツ縛エ縛？〒縛励g縛？」

少し雰囲気が重く：いや、ヒリついてるような気がする。

しかし知った事ではない。神様だろうと俺の我は通す。

譲るべき道理もないし利点もない。

隠す事なくそのまま口を開ける

「実際に戦ったり競った上でその相手に負けたのならともかくとして
：実際にそういった事をしたことない奴に実力を認めない、とか言う
ならそんな奴らはねじ伏せます。認めてもらおうとは思いません、認
めさせます。他人の評価などどうでもいいけれど、わざわざ楯突いて
向かってそんな口きいた奴らはねじ伏せます。それが親であろうが
神様であろうが、誰にも俺の実力を否定させやしない。上回られない
限りは、負けない限りはねじ伏せます。」

こればかりは譲れない。しっかりと敵として対戦相手として戦つ
て負けたのなら、勝った相手から下手くそだの、実力が伴ってないと
か言われるのは一向に構わない。勝者が正義なんだから。

けれど外野にそれを言われるのは、我慢ならない。

「寔ヲ髻倅コ牙ソ？↓雋？縛代★雖後∨縛梧ユ、蜃ヲ縛セ縛ア辯サ縲翫
？…コ「縲後k縛イ縛ツ縲ゆ&縛槭◎縛ヨ闕偵？縲句ソ？r諡シ縛礼
落縲✓k縛ヨ縛才閣ヲ蜉工縛励◆莠九〒縛励g縛??ヲ縲ゆ#螳牙ソ
??縛？縛輔∨縲ゆ◎縲雍→雋工譚ケ縲貞娼縛肴スー縛励？ffイ工譚ケ
縛後？縛倅シ上〇縲狗寫寔九←荳崎？逕ア縛励→縛？ク也卓縛後≠
縲翫U縛呐？ゆ◎縛ヨ荳也卓縛ア莠コ縲？r縲…始縛医☒閏？#
縛ヨ莉「縲上j縛才縛昂？蜃幄？縲呈險縲九∨譚代、蜃瑚？縛ヨ荳？譚
上←縛励※辟。豕戊??↑縲ゆ？ff穀縛力縲狗汲縛？。槭r豕医@蜎サ
縲俱コ九r鬢控▲縛ヲ縛翫j縛セ縛呐??」

「潜ヤ譚・縛ア潜峨ー縛ー縛昂？縛セ縛セ縛企？✓j縛輔〇縛ヲ鬆ゆ
%縛？↓諤昂∨縛セ縛励◆縛娼？ヲ雋工譚ケ縛ヨ髻倅コ牙ソ？←螟ア
縛？←潜溷セ？、諤✓※縲狗ゼ縲∞ケセ縛、縛狗ア✓。縲面肢縛代※

蟾ヨ縄嶺ク翫? 縄ヲ縄セ縄励g縄??ヲ

縄昂1縄ア縄ツ縲∞セ。豁ヲ驕九r窶ヲ」

…満足、したのか? 雰囲気が和らいで、って神様?? それ俺よく見た奴ですよ? パーンってなって、お耳キーン…ってする奴。

なんで手を振ってるの?? 満足そうなのは大変結構でございますが、そのもう片手に持つてるそれは——あつ、ピンを抜いちやいましたね?? あ、安全レバーを飛ばして…手慣れてらっしゃいマスネエ??

もう一つしかない予感、そのままの通りにやってきました。

神様は、フラッシュバンを俺の前に優しく投げた

「フラッシュバン——」キ——ン

……て、ジ……ん……よ

起き…ジーク、ご……よ

「…起きてく、ジーク。ご飯よ〜」

……見慣れない天井、聴き慣れない名前。聴き慣れない声。

なのに何故か自分の親だと、名前がジークだと言うことは…驚くぐらいあつさり理解できた。

布団から出た小さく、スマホを握るには小さな手を見つめた

……俺は、ジーク君???

西暦2062年